

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！

2018年12月15日

第14号

# すくらんぶる

0・1・2さいの人たちへ 遊ぶ時間とみる時間

## 「かぜのうた」県内五カ所で公演

2018年11月22日～27日

2016年に県内三ヶ所で実施した「乳幼児のためのコミュニケーション事業・わらべうたであそぼう」の講師だった大沢愛さんの、乳幼児のための作品を、壱岐子ども劇場、佐世保子ども劇場、諫早子ども劇場、ながさき子ども劇場、ありあけ幼稚園の5団体と共催して県内5カ所で開催しました。

2年前のワークショップでは『子どもの権利』を体感することが目的でした。大人と子どもの関わりの中で、大人主導になり、子どもの身になって考えることや、子どもの表現を待つことなど、子どもの権利を尊重して関わるのがおろそかになることが多々あります。それに気づかされ子どもの権利を守るといったことはどういうことかを、頭ではなく心と体で学ぶことができたワークショップでした。0歳から子どもには遊びや文化的芸術的生活へ参加する権利があります。今回はそのことをきちんと保障することの意味を目の当たりにすることのできた取り組みでした。

それぞれ自由に座った親子の中で、始まるわらべうたの世界。ゆったりと子どもの時間に合わせて歌と遊びの穏やかな時間が過ぎていきます。その気持ちのいい空間に大人たちもやさしい気持ちになっていきます。遊ぶ時間の後はみる時間。パステルカラーの舞台、柔らかな動きと光の中で季節が穏やかに移ろっていきます。五感を使って集中する子どもたち、そんな子どもたちと一緒にいられる幸福感と、作品の持つ温かさに大人たちも癒されながら楽しむことができました。

5会場合わせて89組の親子と38人の活動を支える側の大人が参加しました。浅野先生の講演会で聞いた「乳幼児の観る力」を「かぜのうた」に参加した子どもたちを見て実感することができたという感想もあり、学習と実践が結びついて、乳幼児からの活動を保障することの必要性を再確認しました。壱岐では子育て支援団体とつながりアートスタートとして定着させる一歩として、佐世保では『ちいきのなかま』との共催、子ども劇場のない島原では、ありあけ幼稚園が初めての取り組みなど、他団体への広がりをつくることができました。

### \*参加者の感想\*

○本当にぜいたくな時間でした!!子どもが見ている舞台を私も見て時折子どもがこちらをふり向いて何かを伝えたそうに見つめてきたり(3才・1才)楽しい気持ちになって、となりの子に「ねえねえ？」と話しかけたり(今の見た?という感じ)。私の心はモチロン動いていましたが、子どもの心の動きもありありと分かる時間でした。

○わらべうたあそびで身も心もほぐれた後、むかしなつかしい日本の風景を感じる舞台に、子どもも大人も見入ってしまいました。四季折々の生き物、風景が繊細に表現されて美しかったです。子どもにこびない芸術的な作品で、でもひきつけられてすばしかったです。

○島原ありあけ幼稚園では参加者全員が初めての観劇で、こんな小さい子どもたちに観られるのか、どんなものなのかと不安いっぱいだったお母さんたちでしたが、遊びから劇へとやさしい、ゆったりとした時を過ごすなかで、やさしい笑顔になり、その腕の中で安心して観る子ども達。乳幼児の観る力を実感できた時間でもありました。

### 最新情報

12.23

高学年活動を考える会

12.25

理事会

2019年

1.14

乳幼児活動交流会

1.22

理事会

2.5

劇場代表者会

例会活動交流会

3.2～3

県内子ども劇場

高校生、青年交流会



# 大沢愛さん『表現ワークショップ』

11月21日(水) 石田スポーツセンター・多目的室 (彦岐)

11月24日(土) 長崎市立図書館新興善メモリアルホール (長崎)

11月25日(日) 諫早市立西諫早公民館 (諫早)



2016年から始まった乳幼児のためのコミュニケーション事業では、乳幼児を持つ親子と共感しながら、子育てを応援していく人たちを増やしていく事も目標のひとつでした。「地域の人たちが子育て中の人たちと共感共有できるスキルを学ぶ」ことを目的にあげ、大沢愛さんの「大人のわらべうた講座」を開催しました。2017年には、同じ事業の2年目として、親子むけには中市真帆さんを講師に迎え「とびだせ！絵本」大人向けには「絵本の読み聞かせのお話」を開催しました。「とびだせ絵本」では、子どもとのやりとりのある「コミュニケーションリーディング」などの遊び心ある読み聞かせを知ることができました。大人のための講演では、絵本の持つ力や、子どもとどのように向き合っていけばいいのかのヒントなどたくさんの学びがありました。

3年目の今回は、子育て世代が家族や狭い範囲の関係に終始する場合も少なくない現代においては、もっとたくさんの大人との関わりや多様な価値観に囲まれて育つことが必要だと考えました。大人自身が自分を開放し、表現力を培いコミュニケーションを楽しみ、子どもを受け止め支える個性豊かな人になることが必要と考えて「表現ワークショップ」を企画しました。

人と同じでないと安心できなかったり、人にどう思われているか気になったりと大人も子どもも自分らしく生きることが難しくなっているといわれています。人はみな違っているのが当たり前のはずなのに、同化させたり、画一化させたりすることが社会全体で日常的に行われています。大沢愛さんの和やかな雰囲気、少しずつ開放されながらわらべうたを楽しみ、白熱のジャンケンゲームやドラキュラのゲームに興じ、本気で遊ぶ楽しさを体感した後は心も体もほぐれていました。ここまでのワークショップが終わったころには、初めて出会った人たちとも昔からの知り合いのようになっていました。そしてひとりから始まってグループで様々な物を身体で表現します。想像力を働かせてグループで意見を出し合い協力しながら、各グループともユーモアたっぷりのものを創りだしていました。自分らしくいられる場とは安心していられる安全な場。そんな場を地域の中につくっていききたいという感想も聞かれました。

## \*参加者の感想\*

○正直どんなことをするのだろう??と、不安ありドキドキワクワクでも、愛さんのフワ~とした雰囲気、なんだか温かい気持ちになりました。最初にした「キャッチ」のゲームで大盛り上がり…ジャンケンの頭の体操…(少々パニックってしましたが楽しかった!)子どもにも楽しいと思いますが、大人にもすごく良いと思いました。気持ちが疲れていたり、落ちている時でも元気になれるワークショップでした。愛さん、ありがとうございました。(彦岐会場)

○偶然ワークショップがあるのを知って参加しました。暖かく迎え入れてもらったことが嬉しく、初めから雰囲気がよかったので安心しました。ワークショップが楽しかったのは参加者の皆さんが互いに相手を受け入れていたからでしょうか?講師だけでなく参加者一人一人の在り方が大事なのだと思いました。身構えずに大人同士が遊ぶのは滅多にできないので本当に楽しかったです。子どもたちにも体験させたいです。ありがとうございました。(長崎会場)

○わらべうたのおだやかなリズムで心がほぐされ、安心感が知らない同士だった間に流れていく感じがとても良かったです。ただ歩くだけでも広い空間ができないように歩くという時に、他者を気がけながら歩くという意識が生まれました。自己を認めることで表現に、そして他者の表現を受けとめる面白さに広がっていく。それがあそびの中にいっぱい含まれている。このそばく遊び(でも真剣)をたくさんしていきたいです。(諫早会場)



## その7

長崎県子ども劇場連絡会では方針として「子どもの権利条約31条（休息・余暇・遊び、文化的・芸術的生活への参加）の実現を目指す」という一文をかかげています。今回は31条に書かれた文化権の内容について学びました。今回は国連子どもの権利委員会からの3度の勧告にも関わらず、文化権を保障する改善策を生み出せないでいる日本の文化行政の抱える問題について学んでいきます。

### 子どもの文化権②

教育基本法では、広く文化を視野に収めた形で教育の目的が語られ（2006年教育基本法では「文化」とともに「伝統」が併記されている）生存権規定で有名な憲法25条にも、「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と書かれていますが、いずれも固有の文化権を規定したものではありません。日本では「生存権・生活権」「学習権・教育権」に比べて子どもの文化の領域と「文化権」に関する位置づけがきわめて弱いのです。

子どもの健やかな成長発達には、子どもの命・身体・心をやさしく守り育てること「福祉（保健・医療）」子どもの技術や学力、技能や能力をていねいに引き出し育てていくこと「教育」そして、子ども達一人ひとりがありのまま、その精神を自由にのびやかに輝かせながら、生き生きとした生活を築き上げていく過程をいっしょに楽しんでいくこと（アニメーション）の三つの内容によって成り立っています。本来総合的で統一的存在であるべきですが、日本社会においては「福祉」「教育」「文化」の領域に分断されています。心を活性化させつつ生活を楽しむ「文化」の領域は独自に成立しておらず、子どものための文化行政というものがきわめて貧弱なのが現状です。

1966年に福岡で産声をあげた子ども劇場は、1973年に全国子ども劇場おやこ劇場連絡会をつくり、30年の間に700の劇場と50万人の会員を超えるに至りました。運動の量的、質的向上の中で劇場施設の増設・整備や文化予算の増額、国や地方自治体の子どもの文化政策の向上のために努力してきました。現在、子ども劇場の数は少なくなりましたが、それぞれの地域で子どもをまん中に置いた文化活動している様々な形態の団体は今でもたくさんあります。しかし、「子どものための文化」「子どもがつくる文化」という視点は、文化行政との間に大きなギャップが生じています。文化権の位置づけがないために文化行政そのものが、子どもの文化への理解や文化活動への援助がきわめて不十分なこと。文化活動への援助の貧困性を補う方法が、学校教育による代替、補足として行われていること。学校教育の領域に「文化」が組み込まれているために、文化の教育主義化が起こり、子どもの成長・発達における文化・芸術のもつ豊かな役割が押しとどめられている、また安定的に文化創造活動をしていく上での社会的基盤がつかられていないことなど、法制・政策・行政的対応の不十分さが以上のような問題点を生み出し、子どもの文化の豊かな発展に向けての妨げになっているのです。

参考文献：佐藤一子・増山均編「子どもの文化権と文化的参加」第一書林

### 子ども劇場 舞台鑑賞情報

★参加方法などについては各地の子ども劇場事務局までお問い合わせください。

| 作品名   |                  | 場所             | 主催              |
|---|------------------|----------------|-----------------|
| ～おやゆびひめ～真冬に春がやってきた<br>(人形劇団クラルテ)            | 2月10日(日)14:00 開演 | 諫早文化会館大ホール     | 諫早文化会館<br>芸術鑑賞会 |
| でべそ版ずっこけ狂言でんでんむしむし48<br>(民族芸能アンサンブル若駒)      | 2月24日(日)18:00 開演 | アルカス SASEBO    | 佐世保子ども劇場        |
|   | 2月25日(月)19:00 開演 | 波佐見町総合文化会館     | はさみ子ども劇場        |
| ずっこけ狂言ばなしどろピカぼん<br>(民族芸能アンサンブル若駒)           | 2月26日(火)19:00 開演 | メルカつきまちホール     | ながさき子ども劇場       |
| Buddy! -あ・い・ぼ・うー<br>(ましゅ&Kei)               | 4月21日(日)19:00 開演 | 諫早文化会館中ホール     | 諫早子ども劇場         |
|   | 4月22日(月)19:00 開演 | 長崎ブリックホール国際会議場 | ながさき子ども劇場       |
| かっきーとちかちゃんの「おさんぼ劇場」<br>(人形劇団むすび座)           | 5月23日(木)19:00 開演 | アルカス SASEBO    | 佐世保子ども劇場        |
|   | 5月24日(金)19:00 開演 | 諫早文化会館展示室      | 諫早子ども劇場         |
|   | 5月25日(土)15:00 開演 | メルカつきまちホール     | ながさき子ども劇場       |
| 三びきのやぎのがらがらどん<br>併演いつもちくのおとこのこ<br>(人形劇団ブーク) | 5月24日(金)19:00 開演 | 壱岐の島ホール中ホール    | 壱岐子ども劇場         |

**NPO 法人  
長崎県子ども劇場連絡会**

〒850-0057

長崎市大黒町 4-26  
北村第一ビル 302 号室

TEL: 095-825-0533

FAX: 095-825-6151

E-MAIL: n.kogeki@alto.ocn.ne.jp

**県内子ども劇場**

ながさき子ども劇場

TEL: 095-825-0533

佐世保子ども劇場

TEL: 0956-22-6747

諫早子ども劇場

TEL: 0957-23-5689

壱岐子ども劇場

TEL: 0920-44-5010

はさみ子ども劇場

TEL: 0956-85-4273

**Web サイト**

「結果は

<http://www.nakogeki.sakura.ne.jp/>

発行

**NPO 法人長崎県子ども劇場連絡会**

**★編集後記★**

ラグビー日本選手権で神戸製鋼コベルコスティーラーズがサントリーの三連覇を阻み、55 対 5 という大差で初年度以来 2 度目の優勝となった。実は私、一昨年に亡くなった神戸製鋼 GM の平尾誠二さんの高校時代からのファン。伏見工業高校時代の全国制覇。そして同志社時代の大学選手権三連覇。社会人日本選手権の神鋼 7 連覇、そしてトップリーグが始まってからもテレビの前やラグビー場に足を運び大声をあげながら応援してきた。神戸製鋼がトップリーグで優勝から遠ざかった後、準優勝だった年に主将になった橋本選手が GM の平尾から「結果は気にしないでいい。内容はどうやったんや。納得できるものだったんか？」と静かに問われたそうである。その時、目先のことにとらわれ、自分が何をやるべきかおろそかにしていなかったかと改めて考えたそう。

箱根駅伝で 4 連覇を果たした青山学院大学の原晋監督が、テレビで語っていたのは、青学駅伝部では根性論を排除し、週 3 日間は自主練習で自ら練習メニューをアレンジする。自主的な管理目標をつくり、達成可能な目標なのか仲間同士でみせあい、貼りだすことで責任を持つ。そこに学年の壁はなく対等に意見を言える関係を築いている、社会でも活かされることであるということだった。

仲間を信頼し合い、自ら考え自ら行動する人たちのスポーツは、見ていて楽しい気持ちがいっぱい夢中で応援したくなるのである。

(N)

幼児のための舞台公演コーディネート事業

**ふくろうぼうや月夜のぼうけん**

くわえ・ぱぺっとステージ

ある月のきれいな夜でした。

「ふくろうの子どもはね、

お月さまの光をうけて少しずつ大きくなれるんだよ」と、

かあさんふくろうは言いました。

でもまちきれない、ふくろうぼうやは、夜の森にぼうけんにてでかけました。

ねずみと友だちになったり、へびとであったり、

ないしょのぼうけんは、ちょっとこわくて楽しいんです。

楽しい人形劇を県内各地で取り組みます

2019 年

2 月 8 日(金)友愛富士見町保育園 (長崎市)

2 月 9 日(土)桜花保育園 (島原市)

2 月 11 日(月)明徳寺 (諫早市)

2 月 12 日(火)みどり保育園 (島原市)



**団体概要**

子どもの豊かな成長と地域の子どもの文化芸術振興に寄与することを目的に 2003 年に NPO 法人として活動を開始しました。長崎県内にある 5 つの子ども劇場や、子どもに関わる団体や個人の方とのつながりを大切にしながら、地域の文化活動を支援しています。「長崎県子ども舞台芸術祭典」、講演会や学習会などの事業を行っています。

子どもに夢を！

たくましく豊かな創造性を！

私たちは子どもの文化を応援します。

**白山陶器株式会社**

〒859-3702 東彼杵郡波佐見町湯無田郷 1334  
TEL 0956-85-3251 FAX 0956-85-6630

長崎角煮まんじゅう

**岩崎本舗**

一般財団法人 長崎ロープウェイ・水族館

**長崎ペンギン水族館**  
Nagasaki Penguin Aquarium

立石産婦人科医院

諫早市栄町 7-6

TEL0957-22-0292

**ダイハツタチバナ**

有限会社 **林田車体工業**

〒854-0126 諫早市松里町 288 TEL 23-5318 FAX 24-1378

〒854-0072 諫早市永昌町 43-6

医療法人 **マツオ内科クリニック**

TEL 0957-25-2225

FAX 0957-25-2220

ホテル **ウイング・ポート長崎**

☎095-895-5774 JR 長崎駅より徒歩 3 分  
<http://www.wingport.com>

佐世保の中心、ビジネス&観光に。  
**セントラルホテル佐世保**



〒857-0872 佐世保市上京町 3 番 2 号  
Phone 0956-25-0001

0120-69-0511

**ホテル ジャノメ**

諫早市永昌東町 1-39 [JR 諫早駅前]

TEL.0957-22-0529

FAX.0957-22-3181